

愛媛県における地域主体型おすそわけ交通の実現と継続

大石一浩/ネットヨタ瀬戸内株式会社（連絡先：n-seto24[at]netz-setouchi.co.jp） 久枝地区まちづくり協議会 NPO法人まるっとおのくめ NPO法人石井わくわく物語
 NPO法人だんだんのわ 東洋タクシー株式会社 四国交通株式会社 有限会社二神タクシー 松山地区第一交通グループ 西堀泰英/大阪工業大学
 松山アーバンデザインセンター 土井勉/一般社団法人グローバル交流推進機構 鈴木雄/北海学園大学

愛媛県松山市で広がる「地域主体型おすそわけ交通」のしくみ

愛媛県松山市では、図1に示すように地域主体型おすそわけ交通が徐々に広がっている。サービスそのものは目新しいものではなく、図2の体制で運営するオンデマンド型の相乗りタクシー（チョイソコ）であるが、特筆すべき点が4点ある。

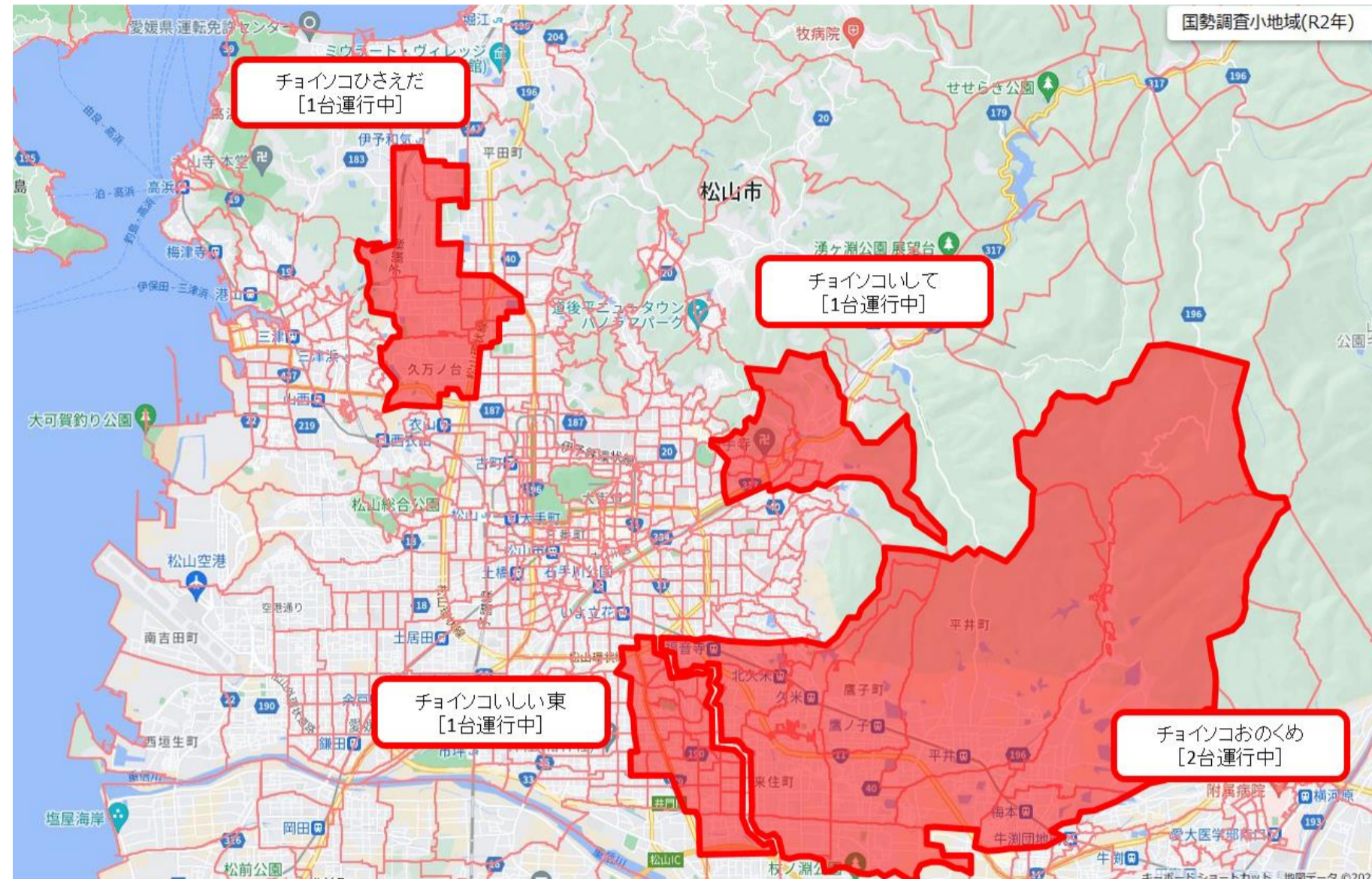


図1

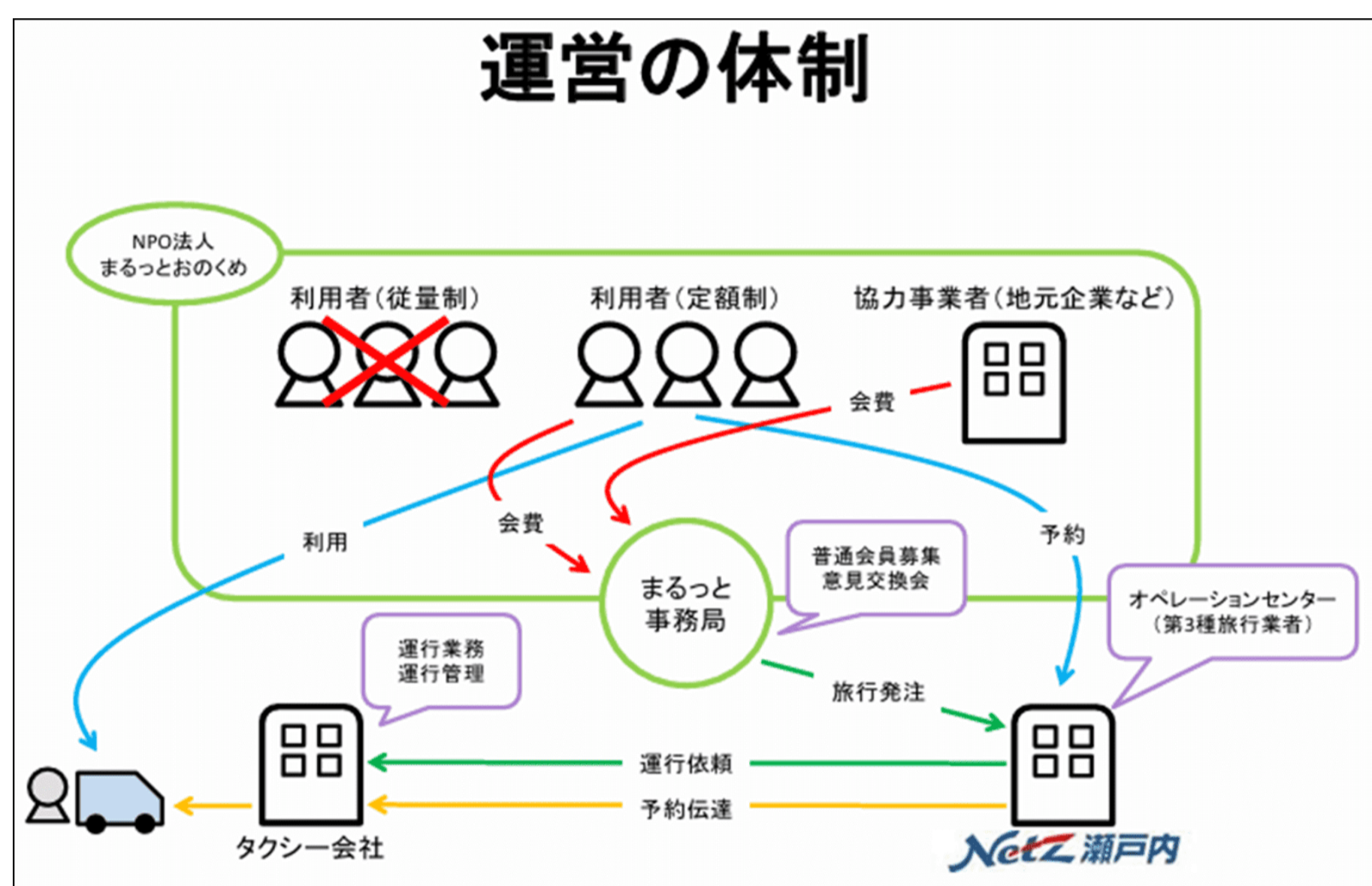


図2

運営の特筆すべきポイント

あふれるほどの利用

- ・利用者への対面による丁寧な説明
- ・利用を促進するためのコトづくり
- ・協力事業者からクーポンの発行
- ・おでかけ希望日時の変更を提案



個別に生活実態に合った利用方法を共に編み出すことで、利用者のおでかけ意欲そのものを増大

フレイルにつながる予防効果を確認

- ・事後の効果測定により、回答者の40%程度の人の「心が元気になった」ことが判明
- ・消費行動に関する変化も示唆

心のフレイル予防だけでなく、体のフレイル・社会的なフレイルにも予防効果があると考えられる

共感型プロジェクト

- ・運営に参画する人の多さ
- ・利用者も「利用する」という形で参画
- ・圧倒的な協力事業者数

明確な意図の設定や、対話によるコミュニケーションがもたらした共感

高い再現可能性

- ・法制度の整理
- ・十分な協力事業者を集められる
先例を示した（自治体の予算ありきとは限らない）
- ・好影響をもたらす関係者とのコミュニケーション実践に対する自信

より多くの地域での本質的な再現に期待

サービスを利用した前後の変化

資料 楽しみの交通プロジェクト報告会資料（2023.3）

おでかけ困難に起因する諸問題が顕著になっている。特に、高齢者の引きこもり状態由来のフレイルの進行は深刻で、愛媛県内でも各地で大きな問題と認識されて久しい。本プロジェクトは「外出による健康増進」を目当てに始動したものであることから、フレイル予防を含め、この点について独自の効果測定を実施している。

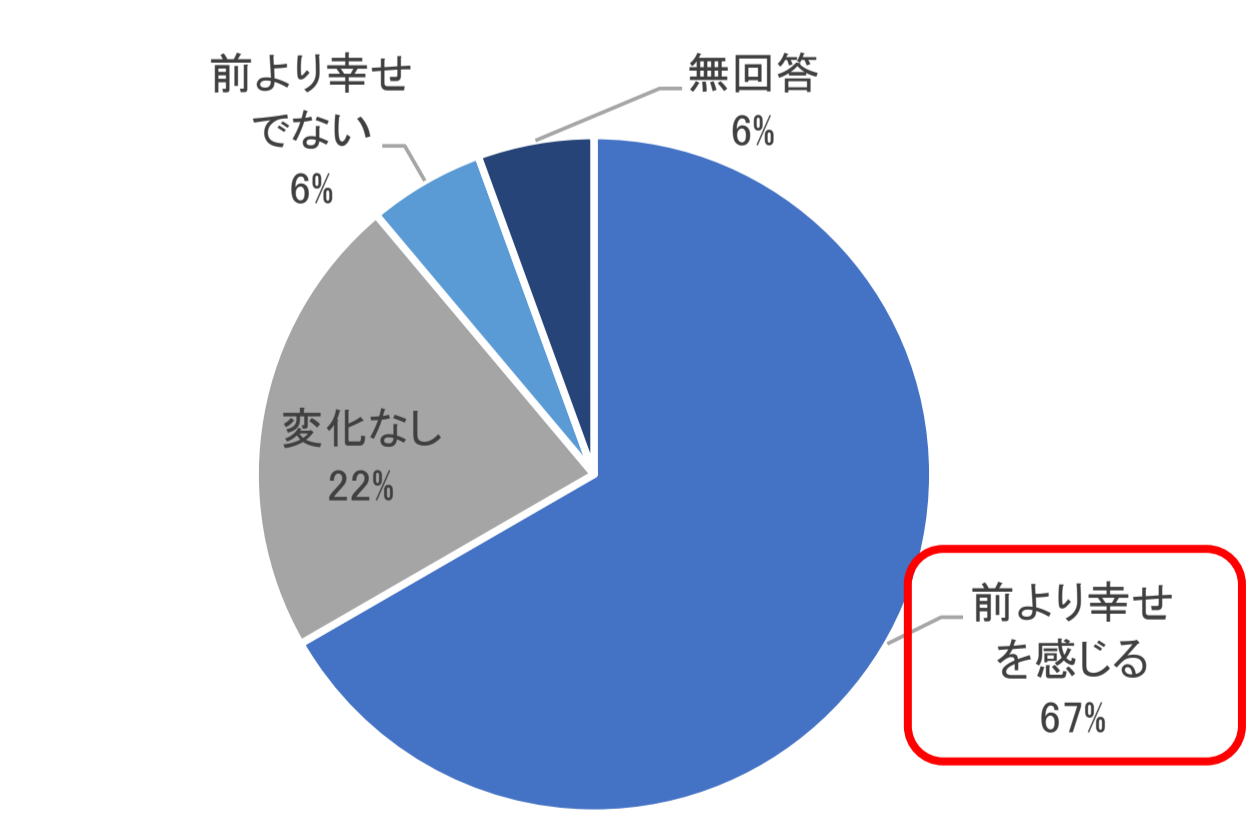
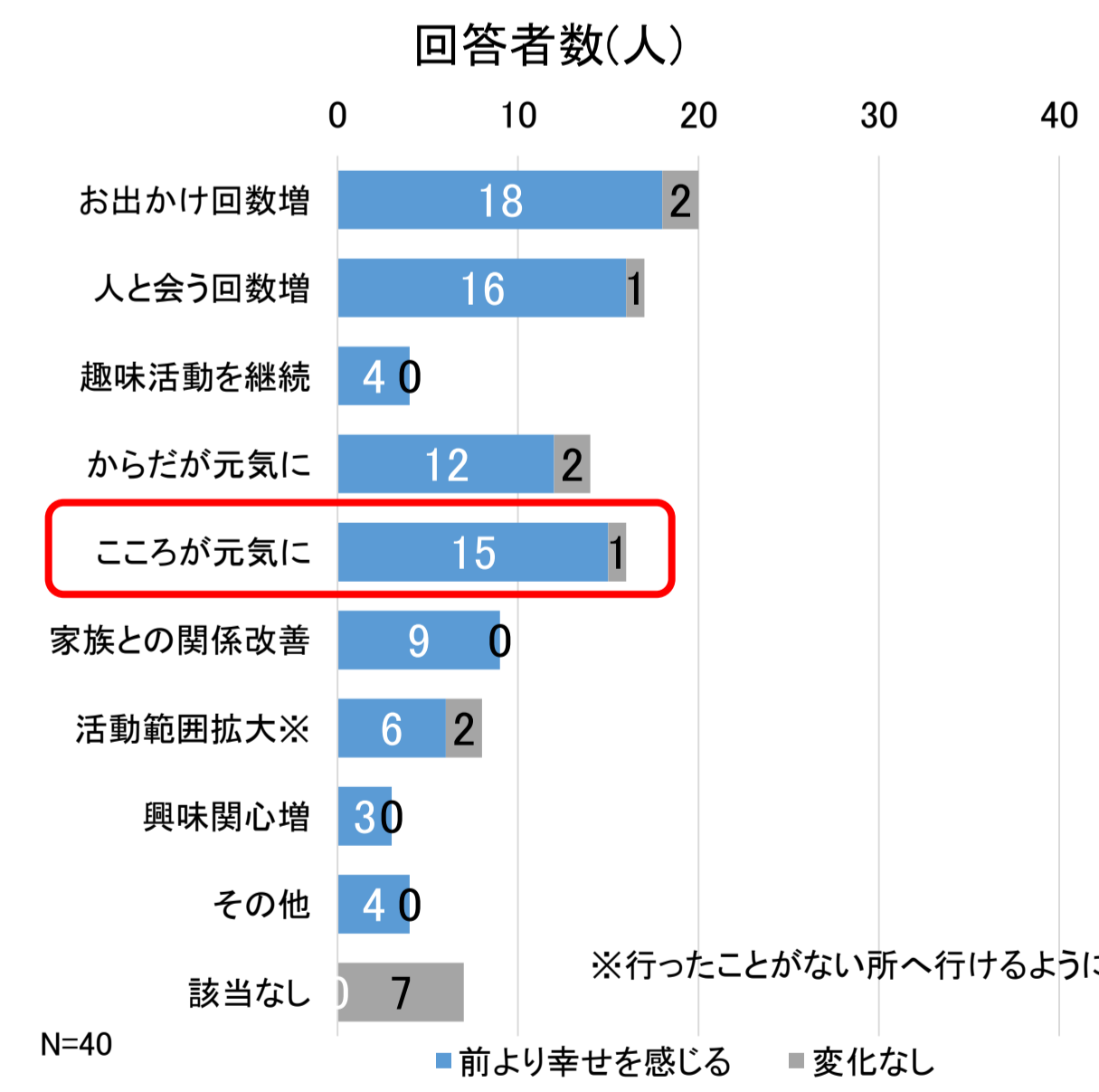
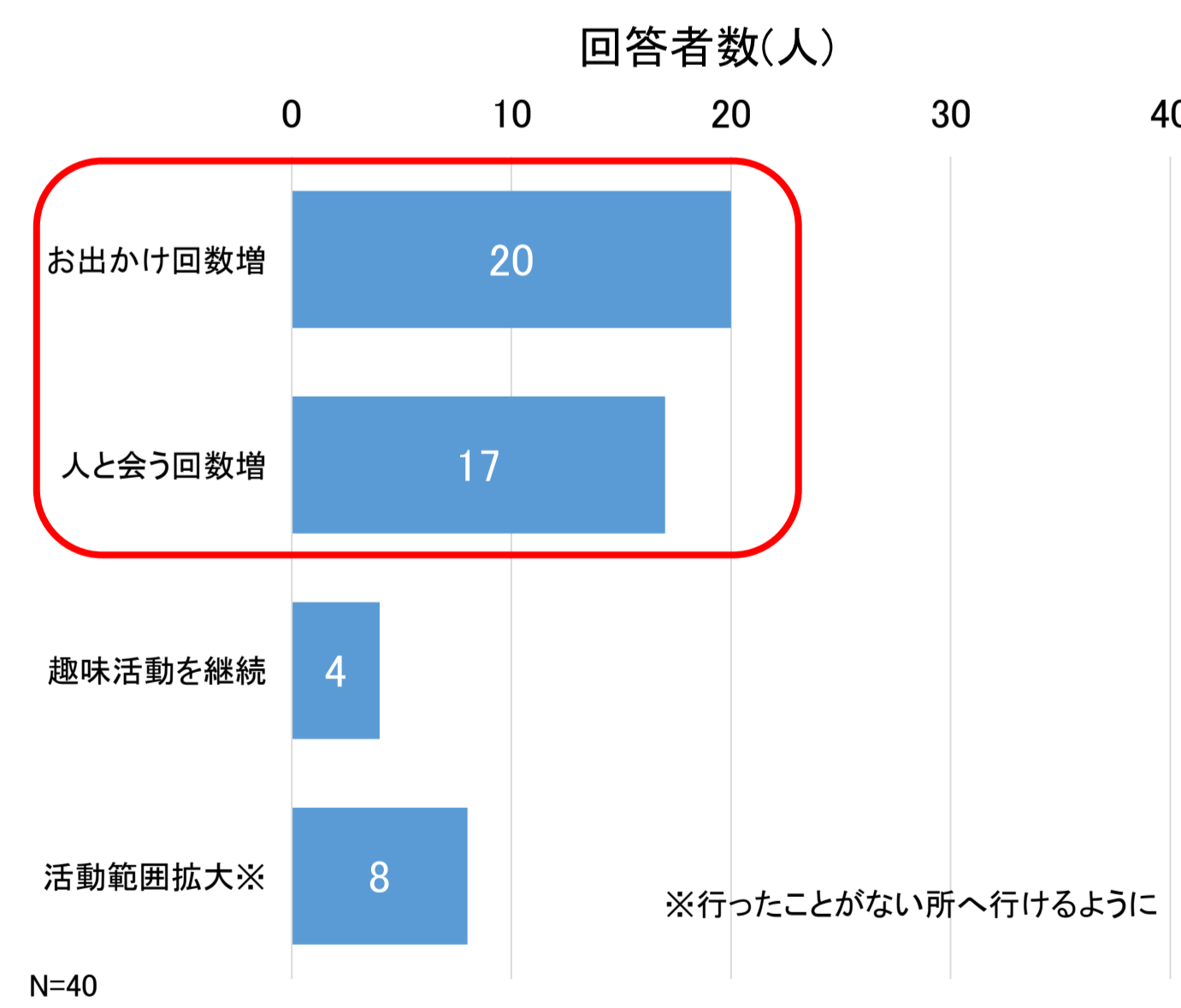
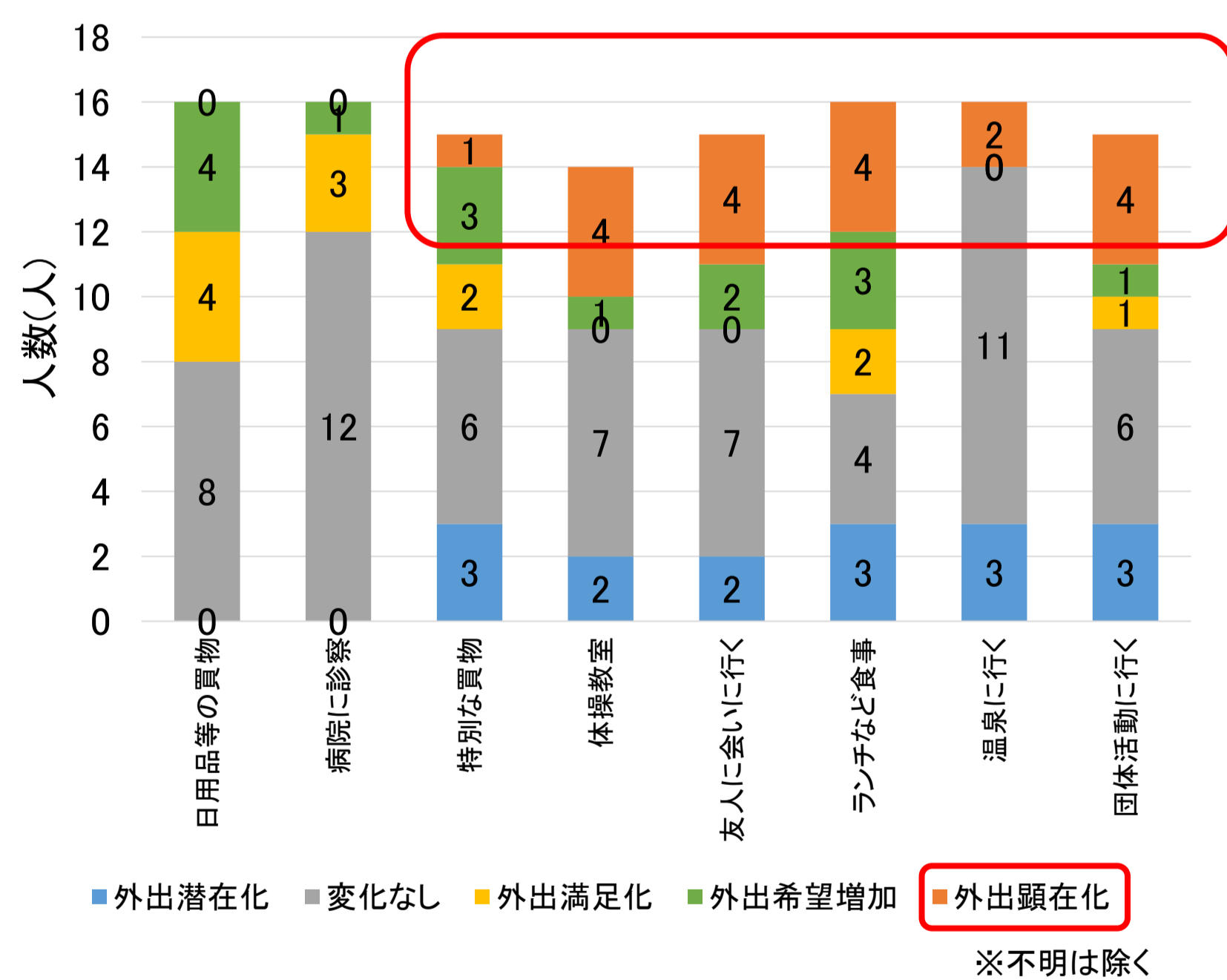
各種調査の結果、サービス利用の前後において大きく4つの効果を確認することができた。特に右2つについては、誰もが利用できる公共交通が備えるポテンシャルを存分に発揮した証左ではないか。派生需要である移動そのものよりも、地域が一丸となり、本源需要である「おでかけの目的」にこだわった結果であると考えている。

できなかったおでかけができるようになった
またはおでかけの喜びを思い出した

半数程度の回答者が、お出かけ回数や人と会う回数が増加したと回答

40%程度の人が「こころが元気になった」と回答

50%以上の人が「幸福感が増した」と回答



プロジェクトの特長

地域のおでかけ関連問題を認識した当初は当然市役所に相談をしたが、行政補助の確保を前提にする場合、実現に時間がかかりすぎるのが分かった。一方、地域には今まさに困っている人がいる。そこで、費用については地域での自弁を目指すことにし、地域主導による問題解決型のプロジェクトとして始動した。結果として利用者からの利用料と、協力事業者からの協賛金によって全額賄うことができた。結果的に行政補助なしで運行が実現したことは、「地域が本気になればこれくらいのことはできる」という良い経験になった。

送迎がないと病院にいけない

必要最低限の外出ができれば十分

地域の問題を地域で解決

好きなタイミングで外出ができる

自分の時間ももてる

新しい交流の場に行ける

送迎を考えると仕事ができない



地域主体ならではの新規性



おせっかいとも思えるほどのより添い

利用者全員に、運営主体からボランティアの担当者をつける
→情報提供・上手な使い方のレクチャー・日常生活の見守り機能



目的に特化

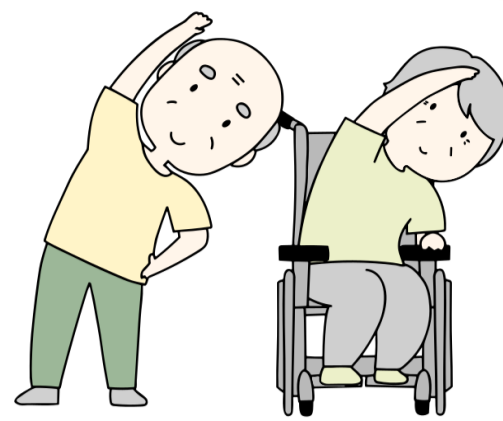
健康増進・フレイル予防が目的であるため、例えば利用料金は月3,500円定額乗り放題のみ
→「元を取ろう」という気持ちを捉え、おでかけ回数を増やす仕組み



多くの協力事業者

車両1台あたり年間600万円程度の協賛金を確保
→「地域主体による問題解決型プロジェクト」という点が共感を得やすい最大のポイント
スーパーや病院などおでかけの目的施設以外に、目的になり得ない企業が協力事業者に
多く名を連ねている

おでかけ回数が多いほど
フレイル予防につながるかも



地域の決意に始まり、
仕組みから効果まで地域主体の特性を
最大限に活かした事例！

本プロジェクトの協力事業者第1号は、
マルマストリグ株式会社という建設会社

プロジェクトの取り組み姿勢と応用可能性

久枝に始まった本プロジェクトが各地に拡がりを見せていることが、応用可能性を示している。特にポイントと考えられるところを2つ挙げる。

①「久枝地区でできたならウチの地域でもできる！」

久枝の成り立ちは各地に勇気を与えるものであり、これ以降も各地での取り組みは積極的にメディアに取り上げていただき、勇気を与え続けている。



引用:左から
『定額制相乗り送迎サービス「チョイソコいいい」出発進行！<NEWS CH.4>』/【公式】南海放送NEWS(チャン4)
『【地域公共交通】「移動の自由」守るには<NEWS CH.4>』/【公式】南海放送NEWS(チャン4)
『「豊かな移動」で「豊かな暮らし」 チョイソコひさえた』/トヨタモビリティ基金
『Nスタえひめ 未来を変えるSDGs 「新たな地域交通「チョイソコひさえた」』/あいテレビ【公式】

②目的が明確である

それぞれ地域は別であっても、「何のためにやっているのか」という目的意識を持ち続けることができている点は共通している。目的自体は地域によってやや異なるものの、「住み続けられる地域であるために」という要素も共通している。



各地域の関係者や利用者が集まる「チョイソコ連合会」では、
好事例や地域での取り組みを共有し、困りごとを相談し合える
仲間として定期的に報告会を行っている

本プロジェクトは地域主体の取り組みであるが、ここで言う「地域」とは一体何なのか。住民はもちろん、企業や店舗、また地域を通る路線バスや鉄軌道まで、その地域に所縁のある全てを地域の構成要素と考え、一体となつてごきげんに取り組むことを理想とし、それを目指し、おせっかいにも交通事業者や行政も含め各方面への働きかけを続けている。

また、一番大切なことを一番大切にしている姿勢である。「一番大切なこと」とは、意図である。意図がフレイル予防なのであればそれにまつわる効果を測定するし、その達成に向けて努力し続ける。他事例では収支改善が目標になることが多いが、本プロジェクトでは、収支をバランスさせることは目標ではなく前提である。これらの取り組み姿勢を他地域からの視察者等におすそわけしたことが功を奏し、共感を得、仲間が続々と増えているものと実感している。

ひろがるおすそわけ交通の輪



70歳代運営幹部の娘さんより
「最近母がすごくイキイキしていると思ったら、
チョイソコの運営に関わっていた」

新エリアの出発式には
既存エリアの運営メンバーも
参加

利用者同士の新たな繋がりが
生まれている

はじまり

ひろがる

たのしみ

ともだち

2021年
久枝地区運行開始

2022年 小野久米地区
2023年 石井地区
2024年 石手地区
運行開始

お茶会やスマホ教室、お花見など
イベントを定期開催
運営メンバーもごきげんに活動できる
組織作りを

車内やイベントで知り合った人同士で
旅行に出かけたり、利用者同士で連
絡を取り合っ一緒にお買い物に行く
ように